

あり

一酒田城

東禪寺の城ともいふ又飛騨城ともいふ
由來未だ記を但古來ハ大河の南にあり
一と書し記し傳れを略之往古出羽西目の
城なり義經記七と書し今度此等の渡りて
平權歌をおとしつゝ詞は和歌のやうに我
よりつゝふ出羽西目一年二年の間はあ
ぬ事ハよもあつゝ酒田の湊ハけ少人の文
酒田は常成の館なり古今ありり(さん

このとをたとりしれは權乃りこと何れのお
船賃とていへしを渡をまとりしれとて渡
さすとてく常成といふ武家の代と
なりて酒田の城はなれ一人や二人
まや不見なり續方平記二十九は奥州の
領新波大勝たふち吏政連同三上源理
政公おたし幣を集め將軍義政公(力と付
事)として同急の西人を語られり政
の軍勢に由利仙福戸沢六江益田中堂仁
嘉保赤城大梵寺酒田鮭延清水白鳥山色